

(様式第4号)

上田市行財政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	上田市行財政改革推進委員会(第4回)
2	日 時	平成20年7月25日(金) 午前9時28分から午前11時21分まで
3	会 場	武石地域自治センター 2階 第1会議室
4	出席者	小池会長、宮沢副会長、鬼頭委員、久保木委員、斉藤委員、高橋委員、田口委員、 武井委員、南雲委員、花岡委員、三井委員 【欠席】小宮山委員、西沢委員、森田委員、米津委員
5	市側出席者	金子行政改革推進室長、鎌原係長、星野主査、平田主任
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者 0人	記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成20年8月7日

協議事項等

1 開 会

(会 長) それぞれの部会で限られた時間の中で審議していただいた。
本日はその結果についてご審議いただきたい。

2 議事

(1) 前回の会議録の確認について

(事務局) 前回の会議録についてはホームページで公開するので、訂正があれば事務局に申し出て
いただきたい。

(2) 部会における審議結果について

(事務局) 情報プラザ部会の答申案について朗読

(情報プラザ部会長) 今回の答申案については、情報プラザの具体的なコンセプトができず、仕組
みづくりがなかなか進まないという中で、その障害となるものを取り除くという観点で取
り組んだ。

まず、これまで業務が進んでいなかった原因について診断するために、担当課である秘
書課、情報推進課に対してヒアリングを実施した。

その結果、取り組みが進んでいない原因は、初めての取り組みであることから、正解が
ない中で選択をしなければならないという状況で行政としてなかなか手をつけることがで
きなかつたこと、また情報プラザについては市長のマニフェスト等で地域情報を活用する
方法として記載されているが、そのイメージが絞りきれていなかったことが原因と考えら
れた。

そのため、情報プラザとしての目的やコンセプトを明確にするという視点から答申案を
議論した。

情報プラザについてはさまざまな計画で記載されているが、点と点でうまく連携されて
いない。面として考えるべき。

(会 長) 「はじめに」の部分で、「新上田市となり - 」以下の記載は、前の段落の部分にまとめて
もいいのではないか。

また、前例がないことから行政がなかなか取り組まないという表現で使用している「正
解のない選択」という表現はもう少し分かりやすいものに工夫した方がいいのではないか。

(情報プラザ部会長) 「新上田市となり - 」以下の記載は、市長マニフェストの中で情報プラザに
対する思いが強いことから記載した。

(会 長) コンセプトという記載は、「情報プラザの機能」という補足説明を入れた方がいいのでは。
参考資料の記載もタイトルに入れた方がいい。

新たに行政が始める専用チャンネルについては知らない人も多いことから、記載方法を工夫すべき。

(委員) 10月開局と入れた方がわかりやすい。

(事務局) 上田ケーブルビジョンと丸子テレビに委託して実施する。

(委員) 真田と武石地域は放送されるのか。

(事務局) それぞれ上田ケーブルビジョンと丸子テレビの放送エリアでカバーしている。

(会長) 最後の「5 実現に向けての留意点」にある(4)以下の記載は不要では。

(委員) 「2 コンセプト」の(3)で「報せて」という言葉を使っているが、なじみのない表現ではないか。

(事務局) 「知らせて」という表現と意味は同じだが、広く広報したいという思いを込めてこの漢字を使っている。

(委員) 「醸成」という表現は難しいのでは。

(情報プラザ部会長) 人と人とのつながりが薄れている中で、ネットワークづくりにより地域の交流が進むようにという表現で使っている。

(委員) 万人が分かりやすい表現にした方がいい。

(委員) 市長は施政方針等でよく使用している。

(事務局) 保育園部会の答申案について朗読

(保育園部会長) 行政は保育園の民営化について10年間取り組んできたが、何も進んでいない。

担当課である保育課が今後設置する保育検討委員会との役割分担に戸惑いを感じたが、行財政改革推進委員会としての視点から、子育てするなら上田市でというテーマを設定して議論した。

民間活力を導入するという視点はあるが、そのために子どもが犠牲にならないように留意して議論した。

(保育園副部会長) なぜ保育園の民営化を検討しなければならないかという目的を明確にすることから議論を始めた。

行政が保育園を経営する時代は終わったということで、全国的に保育園の民営化を強引に進めてトラブルになる事例が出ているが、そうした議論とは一線を画し、公と民間のそれぞれの長所を生かしながら役割分担を見直すという視点で議論を行った。

(会長) 民間活力導入の受け皿の具体的検討の部分で表現を変更した理由は。

(事務局) 部会の議論の中で、受け皿の具体的な条件については保育検討委員会で議論すべきだという意見があったので、受け皿を社会福祉法人に限定しない表現にした。

(委員) 市内の民間保育園の経営主体はすべて社会福祉法人なのか。

(委員) 財団法人もある。

全国の保育園民営化の事例では、株式会社や保育園経営の実績のない事業者が経営主体となったことから問題となっているので、まず保育園経営の実績があるところから考えるべきでないかと思う。

(委員) 東京都の練馬区の事例では、哺乳瓶などをつくっているピジョンという会社が区立保育園の経営を受託して半年経ったら、保育士の半分以上がやめてしまったということが問題になっている。保育園経営の実績や公益性を大事にすべきでないか考える。

(会長) 受け皿を限定しないように門戸は開いておくべき。

行政では、民間活力導入指針に基づいて事業仕分けを行い、民間活力の導入を進めるとともに、民間からの提案制度も検討している。

そうした意味からも最初から制限すべきではない。

(委員) 上田市には無認可保育所もある。そうしたところも含めて考えるべきでは。

- (委員) 実績と地域性については、質の問題として入れてもいいのでは。
- (委員) 具体的な受け皿としては保育検討委員会で検討すると思われるので、大枠の考えとして入れてもいいのでは。
- (委員) 「現時点では」という表現が入っているので、「また新たな受け皿づくりについて検討すべき」という記載を削除すれば限定にはならない。
- (会長) 「はじめに」の部分で、統廃合についてテーマとして取り上げたが違和感はないか。
- (委員) 「象徴的」という表現は不要では。
- (会長) 統廃合は数の問題だけではない。保育に関する他の問題にも関わってくる。
- (委員) 期限を切ることについての記載はあるか。
- (事務局) 「2 上田市保育検討委員会に求める論点とそれに対する意見」の「(4) 計画的な推進」で計画的に進めることに言及している。
- (会長) 時間的な表現も入れればいい。
- (委員) いつまでも議論をしているのではなく、期限や時間を切るという表現を入れた方がいい。
- (事務局) 計画的な推進に向けて「期限を定めた」検討が必要という表現でどうか。
- (委員) 「定員についての上田市モデルの作成」という表現では、行政に逃げ道ができてしまう。もう少し具体的に記載すべき。
- (委員) 定員はどのように決めるのか。
- (事務局) 施設を建設する場合に、子ども一人当たりに必要な面積が国の基準で決まっているので、地域の人口によって定員が決まっている。
公立保育園の定員は規則で決めているのが、定員割れにならないように規則を変更することもやろうとすれば可能。
- (会長) 定員を下回っても、保育士一人当たりの園児が少なくなって子どもに目が届きやすくなることから、悪いことばかりではないという意見もある。
定員の考え方については、保育検討委員会で具体的な基準等を検討してもらえばいい。
- (委員) 保育園の定員については県の認定事項。
定員を増やすことは問題ないが、過疎地などを除いて60人を下回る定員はなかなか認められない。
- (委員) 保育園施設に老人施設を併設する事例もある。
上田市モデルとしてさまざまな可能性を検討すべきでは。
- (委員) 保育の質の向上という議論がある中で「県下一安心保育料の実現」という記載を入れるべきなのか。
- (委員) 将来のために具体的な目標は必要。
- (会長) 国が決めた保育料の基準額に対して、現在も上田市から財源支出をして所得に応じて保育料を下げている、実現性はある。
- (委員) 保育料を安くしたら、保育サービスの質が下がるのではないかという懸念がある。
- (委員) 業務の効率化により生じた財源で保育料を下げるというもの。単にコストを削減するというものではない。
- (会長) 最終的な調整については、皆さんからいただいた意見を踏まえて正副会長と事務局で語句の整理等を行わせていただく。

次回の日程について

・ 8月8日(金) 午後4時15分から 上田市役所本庁舎3階 第一応接室

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。